

報告事項5

基礎学力向上推進委員会開催について

基礎学力向上推進委員会開催について別紙のとおり報告する。

令和元年8月19日提出

神戸基礎学力向上推進委員会について

1. 目的

- 全国学力・学習状況調査及び神戸市学力定着度調査（以下、全国調査等）の調査結果の分析及び検証改善策の検討を行うにあたり、専門的な見地から幅広く意見を求めることを目的として開催する（資料1）。
- 次の3点について意見を求める。
 - (1) 調査結果の検証改善策に関すること
 - (2) 特色の見られる学校の改善事例の収集、分析に関すること
 - (3) 前各号に掲げるものの他、必要な事項に関すること

2. 委員の構成等

- 次に掲げる者のうちから、教育長が委嘱し、又は任命する（資料2）。
 - (1) 学識経験者
 - (2) 教職員
 - (3) 教育行政関係者
 - (4) 教育長が特に必要があると認める者
- 任期は1年以内

3. 具体的な取組

- 全国調査等の結果を詳に分析した結果をまとめた「データ版」を作成。校種・学年ごとに分析→「神戸市授業アイデア版」へとつなげる（資料3）。
- 上記分析から明らかとなった課題の改善を目指した授業案等を収録した、「神戸市授業アイデア版」を作成。内容は次の通り（資料4）。
 - (1) 成果と課題についての考察
 - (2) 課題の見られた具体的な設問について（問題を提示し分析）
 - (3) 授業における指導方法の工夫・改善のポイント（分析結果をふまえて、校種別・学年別に授業改善のアイデアを提示）
- 「データ版」「授業アイデア版」とともに全小中学校（義務教育学校含む）に配布。

4. 今年度の取組（上記3に加えて）

- 神戸が目指す学力観を提示した「こうべ学びの樹」モデル改訂の検討・決定を行う（資料5）。

5. 委員会予定

- (1) 第1回推進委員会 8月28日（水）15:00～17:00（総合教育センター 701号室）
 - 趣旨説明および「こうべ学びの樹」について意見聴取
 - 神戸市学力定着度調査結果の概要について
 - ・ 教科担当指導主事による教科に関する結果分析の報告
 - ・ 学識経験者・教科研究部長からの意見聴取
- (2) 第2回推進委員会 9月26日（木）13:00～15:00（総合教育センター 701号室）
 - 全国学力学習状況調査結果の概要について
 - 「神戸市授業アイデア版」作成について 趣旨説明および意見交換
 - ・ 教科ごとに重点指導項目、調査問題の内容、学力向上策について意見交換
 - ・ 教科ごとに「神戸市授業アイデア版」原案検討
- (3) 第3回推進委員会 10月31日（木）15:00～17:00（総合教育センター 701号室）
 - 「こうべ学びの樹」完成版の報告
 - 教科ごとに「神戸市授業アイデア版」作成作業、動画配信等について
 - 各教科「授業アイデア版」の進捗状況確認および意見交換
 - 今後のスケジュールおよび総括

神戸基礎学力向上推進委員会開催要綱

(目的)

第1条 全国学力・学習状況調査及び神戸市学力定着度調査の調査結果の分析及び検証改善策の検討を行うにあたり、専門的な見地から幅広く意見を求めることを目的として、「神戸基礎学力向上推進委員会」(以下「委員会」という。)を開催する。

(議題等)

第2条 委員会では、次に掲げる事項の意見を求める。

- (1) 調査結果の検証改善策に関すること
- (2) 特色の見られる学校の改善事例の収集、分析に関すること
- (3) 前各号に掲げるものの他、必要な事項に関すること

(委員)

第3条 委員会は、次に掲げる者のうちから、教育長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
 - (2) 教職員
 - (3) 教育行政関係者
 - (4) 前3号に掲げる者のほか、教育長が特に必要があると認める者
- 2 委員会には、座長を置く。
 - 3 座長は教育長が委員の中から指名する。
 - 4 座長は会の進行をつかさどる。
 - 5 座長に事故があるときは、教育長が座長代行を指名し、座長代行が座長の職務を代行する。

(任期等)

第4条 委員の任期は1年以内とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

(守秘義務)

第5条 委員会の委員は、毎年度文部科学省の定める「全国学力・学習状況調査実施要領」(以下「実施要領」という。)及び、神戸市教育委員会会議で決定する「全国学力・学習状況調査に関する結果の公表方針」(以下、「全国調査公表方針」という)及び「神戸市学力定着度調査に関する結果の公表方針」(以下「神戸市調査公表方針」という)の規定に従い、委員会の中で知り得た機密情報を漏らしてはならない。また、その職を辞した後も同様とする。

(会議)

第6条 委員会は、「実施要領」及び「全国調査公表方針」及び「神戸市調査公表方針」に則し、機密情報の保護・管理の徹底を期するため非公開とする。

- 2 教育長が必要と認めるときは、委員でない者の出席を求め意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会事務局学校教育部教科指導課において処理する。

(附則)

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

令和元年度「神戸基礎学力向上推進委員会」 委員一覧		(敬称略)
名 前	所 属・職	
長 澤 憲 保	兵庫教育大学大学院学校教育研究科 授業実践開発コース及び兼担研究科学校教育研究センター 教授	
伊 崎 一 夫	関西福祉大学教育学部児童教育学科 教授 (国語)	
國 岡 高 宏	兵庫教育大学大学院学校教育研究科 認識形成系教育コース (自然系教育分野) 及び兼担研究科教授 (算・数)	
勝 見 健 史	兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教育実践高度化専攻 教授 (国)	
岡 部 恭 幸	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授 (算・数)	
關 浩 和	兵庫教育大学大学院学校教育研究科 小学校教員養成特別コース・社会系教育コース 教授 (社会)	
松 本 伸 示	兵庫教育大学大学院学校教育研究科 授業実践開発 コース 理数系教育コース 教授 (理科)	
吉 田 達 弘	兵庫教育大学大学院学校教育研究科 言語系教育コース 教授 (英語)	
但 馬 桂 子	神戸市立南落合小学校 校長 (小・国語)	
中 瀬 剛	神戸市立宮本小学校 校長 (小・社会)	
山 田 光	神戸市立摩耶小学校 校長 (小・算数)	
中 山 紀 彦	神戸市立妙法寺小学校 校長 (小・理科)	
戎 豊 一	神戸市立夢野中学校 校長 (中・国語)	
樽 本 信 浩	神戸市立唐櫃中学校 校長 (中・社会)	
平 田 修 也	神戸市立烏帽子中学校 校長 (中・数学)	
田 原 唯 志	神戸市立鷹匠中学校 校長 (中・理科)	
河 瀬 将 広	神戸市立星陵台中学校 校長 (中・英語)	
山 下 准 史	教科指導担当部長	
浦 川 稔 弘	教科指導課長	
森 広 樹	教科指導課担当課長	
古 角 芳 忠	教科指導課担当課長	
奥 村 康	教科指導課 教科指導 1 係長	
植 木 健	教科指導課 教科指導 2 係長	
中 根 晴 美	教科指導課 教科指導 1 係 指導主事(中等国語)	
角 素 子	教科指導課 教科指導 2 係 指導主事(初等国語)	
来 代 剛 行	教科指導課 教科指導 1 係 指導主事(中等数学)	
沖 殿 典 昭	教科指導課 教科指導 2 係 指導主事(初等算数)	
篠 原 亮	教科指導課 教科指導 1 係 指導主事(中等社会)	
竹 中 美香子	教科指導課 教科指導 2 係 指導主事(初等社会)	
谷 後 栄 一	教科指導課 教科指導 2 係 指導主事(初等理科)	
吉 田 幸 司	教科指導課 教科指導 1 係 指導主事(中等理科)	
松 浦 新 法	教科指導課 教科指導 1 係 指導主事(中等英語)	
井 上 里 砂	教科指導課 教科指導 1 係 指導主事(中等英語)	

平成30年度全国学力・学習状況調査 小学校調査
問題別調査結果 [国語B：主として活用]
 神戸市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

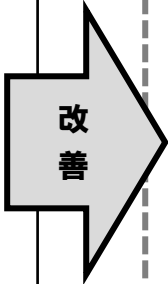
▲：マイナスを示す

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の差(神戸市－全国)(%)
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	神戸市	全国(公立)	神戸市	
1一	【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える	5・6オ				○			○			82.7	82.5	0.7	0.4	0.2
1二	【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する	計画的に話し合うために、司会の役割について捉える	5・6オ				○			○			78.2	77.5	1.0	0.6	0.7
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 <input type="text"/> を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	5・6エ	5・6ウ			○	○	○		○		32.5	33.8	6.5	6.2	▲1.3
2一	「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に <input type="text"/> のように書いた理由として適切なものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える		5・6イ				○			○		56.3	57.6	2.4	1.7	▲1.3
2二	【おすすめする文章】の <input type="text"/> に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く		5・6ウ			○		○		○		9.9	13.5	3.0	2.7	▲3.6
2三	【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える		5・6ウ				○			○		69.1	70.8	4.9	3.4	▲1.7
3一	山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む			5・6イ				○		○		50.2	49.4	3.9	3.2	0.8
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】 <input type="text"/> 最も心がひかれた一文とその理由の文章の <input type="text"/> に入る内容を書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む		5・6ウ	5・6ウ			○	○	○		○	47.4	52.3	12.3	11.9	▲4.9

「習った漢字を使って文が書ける」を目指して指導の工夫をしていますか？

こんな漢字指導をしていませんか？

- ・書き順や字形を整えて書くことにやや偏ったノート（百字帳・おけいこちょう）指導をしている。
- ・漢字の意味や使い方を辞書で調べたりする活動は、ほとんど取り入れていない。
- ・自分の間違いやすい漢字を自覚させた上で、自分の課題に合った練習法に取り組みさせるなど、主体的な学びを意識して指導していない。



- ・学校や学年の実情に合った漢字指導のスタンダードを共通理解する。
- 【例：「〇〇〇小学校 漢字指導の基本事項」】
- ①新出漢字の学習は、帯タイムに行う。
 - ②7月前半までに1学期分の漢字を教える。
 - ③指なぞり3回→漢字ドリルに本書き。
 - ④まず漢字が読めるように→書けるように
 - ⑤その漢字を使った文例を読んだり書いたりすることを、繰り返し練習するようにする。
 - ⑥問題予告の上で小テストを定期的に行い、練習してからテストの習慣を身に付けさせる。
 - ⑦身近な場所に辞書を置くなどして言語環境を整え、漢字の読み仮名や送り仮名、意味、その漢字を使った例文などを自分で調べようとする主体的な態度を育てるようにする。

文脈の中で、習った漢字を使う習慣を付けるよう、指導の工夫をしましょう。

例 例えば、下のような「絵の中に示された漢字を使って、絵の表す内容に合った文を作る学習」に取り入れてみましょう。

- <2年>
 - ・数をあらわすことばをつかって、さんすうのもんだいを作りましょう。
- <3年>
 - ・たから物をさがしに出かけた、男の子のお話を書きましょう。（「そこで」「けれども」などを使ってみましょう。）
- <4年>
 - ・場面や出来事を考えながら、二つの昔話を完成させましょう。
- <5年>
 - ・作家になったつもりで、登山家の半生を文章に書きましょう。
- <6年>
 - ・テレビ局で見学したことについて、家の人に分かりやすく伝える文章を書きましょう。



※自分が普段あまり使わない漢字（語彙）も使う必然性を組むことができます。
※意味や使い方を辞書などで確かめながら、漢字を文中で使うことを訓練できます。

〔参考：「漢字の広場」光村図書 国語一～六〕

「こうべ 学びの樹」モデル 改訂について

1. 「こうべ 学びの樹」モデルとは

大阪大学大学院の志水宏吉教授が、学習指導要領に示された三つの学力の構造的関連性を把握するために提示した「学力の樹」モデルをもとに作成し、神戸の学力観を表現したもの。

2. 事務局が提示する神戸の学力観（現在）

「学力とは、自律力・絆力・向上力を基盤としながら、知識及び技能、思考力・判断力・表現力ならびに関心・意欲・態度すべてが一体となったものである」

3. 「こうべ 学びの樹」モデルを提示する目的

下記の事項について、可視化することで、教員への浸透を図り、共通の理解のもとで、授業改善、学力向上の取組みを進めるため。

- 「学力」とは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」の三つの要素が「一体化」したものであること
- 子どもの育ちを支えとなる力の育成が、学力の向上には大切であること
- 授業のあり方として、「指導」と「支援」のバランスを取ることが重要であること

4. 改訂の経緯

- 新学習指導要領の完全実施を機に、新学習指導要領の内容に対応したモデルを提示し、改めて周知の徹底を図る。

5. 「こうべ 学びの樹」モデルの改訂の方向性

「樹木」をメタファーとすることについては、学校にも浸透していることから継続し、その上で下記の点に留意して改訂する。

- 文言については新学習指導要領を反映する。
- 例えば「自律力」「絆力」「向上力」については、「ととのえる力」「つながる力」「のびていく力」とする等、学校現場にとってよりわかりやすい表記とし、日常での指導に活かしやすいように工夫する。

6. 「こうべ 学びの樹」モデルの対象

- 義務教育段階の教職員を対象とするが、児童生徒・保護者・地域にも理解できる内容とし、難解な言葉は避ける。

7. スケジュール

- 大阪大学の志水教授より意見聴取（7月10日済）。
- 8月の基礎学力向上委員会で学識経験者等から意見聴取。
- 秋以降、リーフレットや「授業アイデア版」等の印刷物、研修で周知を図る。

こうべ 学びの樹とは

「学力」とは、「自律力・絆力・向上力を基盤としながら、知識・技能、思考力・判断力・表現力ならびに関心・意欲・態度すべてが一体となったもの」と定義しています。

この考え方を具体的に絵で表現したものが、「こうべ 学びの樹」モデルになります。

○自律力：規範意識を持ち、自分をコントロールできる力

○絆力：他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力

○向上力：将来の展望を持ち、努力できる力や意欲的に学ぶ力

**皆さんとともに、自律力・絆力・向上力の3つの力で、
心豊かに、たくましく生きる神戸っ子を育てていきましょう！**



こうべ学びの樹

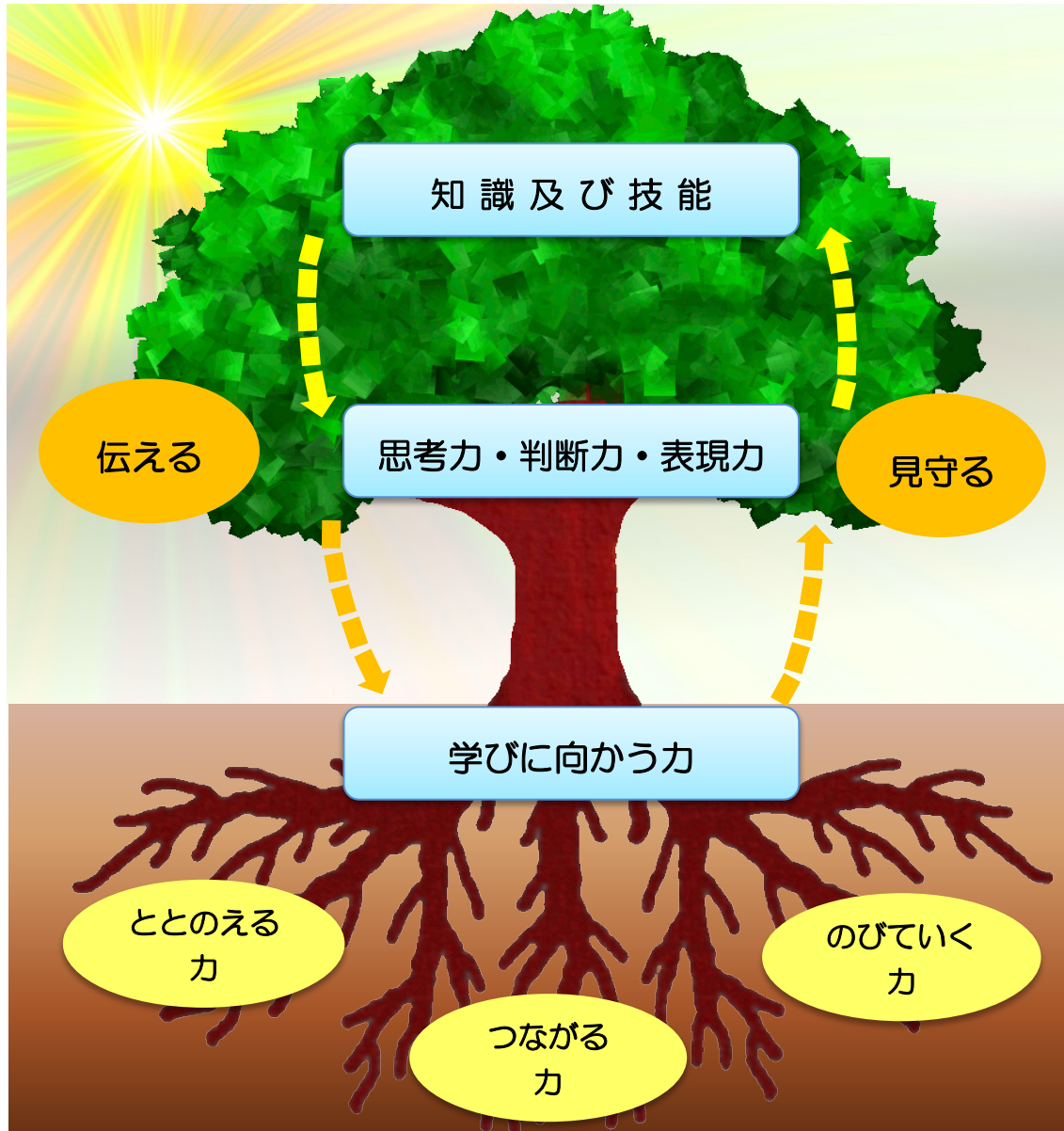
～ 「生きる力」の育成をめざして ～

主体性

豊かな感性

創造力

「より良い社会と幸福な人生の作り手となる力」を身に付けられるようにする



伝える : 「指導」知識の習得を起点とする学習活動

見守る : 「支援」こどもの主体性に直接働きかける学習活動

- ととのえる力 : 自らを調整する力
(早寝早起き朝ごはん / 規範意識の向上 / けじめのある生活)
- つながる力 : 人や社会とつながる力
(あいさつ・手伝い / 思いやり / 家族との会話 / 学校)
- のびていく力 : よりよい自分をめざす力
(読書習慣 / 運動 / 家庭学習 / 粘り強さ / やる気)